

フンボルト賞に幾原教授

独財団、材料科学分野で

ドイツのアレキサンダー・フォン・フンボルト財団は28日、「ドイツのノーベル賞」と言われる2010年度のフンボルト賞を、東京大学大学院工学系研究科の幾原雄一教授に授与した。幾原教授は、材料界面の構造解析や物性研究で知られる。

対象となった研究は「材料界面の超微細構造と物性に関する研究」。材料科学の分野に大きなブレークスルーを与えたことが評価された。幾原教授は、材料界面の構造解析や物性研究で知られる。



幾原 教授

(51)に贈ると発表した。材料科学分野での受賞で、セラミックス材料の界面を超微細に構造制

とくに、ドーパント元素の直視を可能にした研究や、界面構造制御型機能材料設計を行った成果は、最近の「ネイチャー」「サイエンス」などの科学誌にも多数掲載。国際的に極めて高い評価を得ている。

◆ フンボルト賞 幾原教授が受賞

国際的に優れた業績をあげた研究者に贈られるドイツの権威あるフンボルト賞を、東京大の幾原(いくはら)雄一教授(51)(材料科学)が受賞する。28日同大が発表した。授賞式は来年3月にドイツ・バンベルクで行われる。

幾原教授の受賞研究は「材料界面の超微細構造と物性に関する研究」。衝撃や熱に強いセラミック表面の微細構造を電子顕微鏡などで解析する手法をみ出し、この手法を用いて、過酷な環境で耐えられるチタン製の「ナノワイヤ」のセンサー素材などを開発した。

東大・幾原教授に 独フンボルト賞

優れた科学者に贈られるドイツの国際的な科学賞である「フンボルト賞」の2010年度の受賞者に、東京大学工学系研究科の幾原雄一教授が決まった。受賞対象は「材料界面の超微細構造と物性に関する研究」。最先端の透過電子顕微鏡を駆使したセラミック材料の研究などが評価された。

11年3月にドイツで授賞式を開く。同賞はドイツのアレキサンダー・フォン・フンボルト財団が創設。これまでの受賞者のうち43人がノーベル賞を受賞しているという。

日経産業新聞 2010.08.03